



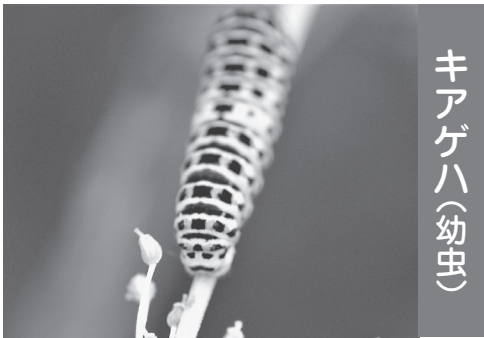
ルリトラノオ



イブキフウロ



アサギマダラ(成蝶)



キアゲハ(幼虫)



親子自然観察会

「親子で自然観察」〜ルリトラノオ〜

☑伊吹にしかない花

「伊吹山ネイチャーネットワーク」では、百花繚乱の7月下旬から8月上旬、伊吹山山頂一帯で「親子自然観察会」を開催しています。昨年の観察会の一部を再現してみます。読者の皆さんも一緒に歩いてみてください。  
ドライブウェイの山頂駐車場から西登山道の入口ゲートへくぐると、い

伊吹山  
やまはな便り

4



伊吹山ネイチャーネットワーク事務局長

山下 吉和

かつてシンボリック的存在で「消えた」花も

きなりアカソの大群落です。「この花は、縄文時代から赤い茎の繊維が布を作るのに使われてきたんだよ。ただ、成長の勢いが強くて、他の花を脅かしているところがあり、毎年アカソ刈りをしています」と説明します。そして中間点のカブを過ぎてしばらく行くと、今回の目玉の一つであるルリトラノオを発見！子どもたちは興奮気味に、「やったー！見つけた。葉の付き方も2枚ずつ(対生)で間違いない」「ようやく出逢えたね。伊吹山にしか咲いていない花ですよ！」

また、中間点のカブでヒメフウロを、さらに進んだところでイブキフウロ、山頂近くでエゾフウロを観察、ハクサンフウロとあわせてその見分け方について説明をしました。また、イブキフウロやイブキトラノオなどのように名前の頭に「イブキ」がつくが、それは伊吹山で初めて発見されたことによるものであることも付け加えました。

環境面も考える機会に  
山頂では、アサギマダラの成蝶とキアゲハの幼虫にも出逢えて子どもたちは大喜びです。その一方で、かつてはあたり一面をピンク色に彩っていた伊吹山のシンボリック存在の花、シモツケソウが「消え」ました。その理由を環境面(シカの食害、気候変動等)にも触れて考える機会にしました。

下りに使った東登山道は、獅子岩のようなカレンフェルトや大きな窪みのあるドリーネなど自然のままの姿を見ることが出来ます。子どもたちが大好きな登山道です。  
今回のルートは周回コースで、ゆっくり観察して歩けば3時間ほどかかります。また、東登山道での転倒事故が多発しています。あくまで「登山」の対象として計画を立ててください。今年も、7月31日と8月2日に「親子自然観察会」を開催します。詳細は本会のHPをご覧ください。